

数学

関西学院大学 全学日程 [理系] (2 / 1 実施)

<全体分析>

試験時間	90 分	解答問題数	4 題
------	------	-------	-----

解答形式

[1] [2] [3] 空所補充式 [4] 記述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴

小問誘導を丁寧につけて出題されている。

その他トピックス (入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

特になし。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
[1]				
(1)	整数	数A	約数の個数と和	易
(2)	対数	数II	対数方程式	易
(3)	図形と計算	数I	三角比の図形への応用	易
[2]	平面ベクトル	数B	内積を利用して角の範囲を調べる	標準
[3]	数列の極限	数III	与えられた条件をみたす数列 $\{c_n\}$ について、 いろいろな極限の計算	標準
[4]	微分法・積分法	数III	2つの無理関数のグラフから定まる領域について、 面積、回転体の体積の計算	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

小問を考慮すると7つの問題からなり、それらの分野に重複はない。
空所補充式の問題も配慮が行き届いており、勉強してきた成果が結果に現れやすい。一方で、通常より「ひと手間多い」計算が隠れていることもある。このような問題について「しっかりした方針を立てて、最後まで正確に計算できる」ことを目標にしよう。